

第3回アメリカ研修報告（5日目）

富山中部高等学校

7月7日（木）、研修5日目の朝はくもり、肌寒く半袖では寒く感じる程です。ボストンの朝晩は涼しいと聞きますが、現地の方からも富山中部生が滞在している期間は日ごとの気温差が激しいとのことでした。

今朝も誰ひとり遅刻することなく8時50分に集合。1日の予定、注意事項に対する反応が生徒から出てくるようになってきました。話す相手に対して「聞いています」という態度をしっかりと示すことはMIT 遠藤さんや Dana-Farber 北嶋先生からもコメントされてきたことです。少しずつ、しかし急速に研修への取り組み方に変化が出てきているように感じます。

英語レッスンの終盤、2クラス合同による椅子取りゲームをロビーで行っていました。一部の生徒は声も大きくジェスチャーも交えながら表現しているのですが、全体的に他国留学生と比べて中部生の声の小ささは気になります。しかしゲームが進みにつれてクラスメイトや先生から「声を大きくして」とリクエストされて、普段通りの声の大きさに楽しめている様子が伺えました。



カフェテリアでの調査



2クラス合同の English class

本日の昼食は比較的ゆっくり取ることが出来ました。研修折り返し地点を過ぎ、積極的に交流をする生徒、日本人同士で固まっている生徒が別れてきているように感じます。ゆっくり食事をする時間が無いから交流が難しい、同じ国の人同士で話が盛り上がっているところには入りにくい、スマホやPCをいじって楽しんでいる人に対してのアプローチは申し訳ない気がする、、、残念ながらやらない理由は少し考えれば無限に出てくるかと思いますが、失敗を恐れず一筋の成功の可能性を信じて一歩踏み出し、アクションを起こすこそが今この非日常空間で取るべき選択肢なのではと考えます。

休み時間での交流



午後は Discussion Program に参加し、英語と日本語のコミュニケーション方法の違いのレクチャーを受けました。講師である Ms. Kerianne 先生は Multilingual です。English only のクラスだと思っていた生徒は流暢な日本語を話していることに驚きの声が上がっていました。生徒の理解度を見ながら英語と日本語、ときにはイタリア語、韓国語を混ぜながら進む授業に惹きつけられ、前のめりになって積極的に発言する生徒が多く見られました。「言語によって与える安心感は違う。人の話を理解するのは頭ではなく feeling。」など、いま実際に言語の壁に直面している生徒たちにとって、今回の授業が現状を打開する大きなきっかけになったのではないのでしょうか。終了後はたくさんの生徒が Kerianne 先生を囲み、質問をしていました。次の予定もあるため全員の質問に答えられないからと、名刺に書いたメールアドレスを頂きました。平等なチャンスから、心掛けと行動ひとつでどんどん次のチャンスが増えていくことを生徒達は実感したことと思います。



Ms. Kerianne のクラス風景



Ms. Kerianne のレクチャーを受ける生徒たち

夕食後は現地で起業家の松川原さんに Tufts 大学へお越し頂きました。現在の日本、世界（特にアメリカ）の状況からこれから求められる人材とは？そのために今の高校生、ひいては中部生たちが出来ることとは？といった視点からお話しをして頂きました。「自分の見極めをするには Try & Error しかない、ものに価値を生むのは人の思考、そのベースとなる考える力には創る側に立つこと、何故という質問を繰り返すこと」などシンプルで分かりやすいけれど、行動に移すには自分の殻を壊して一歩踏み出さなければ始まらないことばかりでした。

研修も後半戦、生活のペースを掴み、いま自分がやるべきこと、やりたいことにしっかりと集中出来始めた生徒が多くなってきたように思います。ボストンで過ごす日は残り実質2日しかありませんが、アクションを起こすことにどのタイミングでも遅すぎることはありません。もう遅いと諦めることだけは絶対にしないで欲しいと思います。非日常空間で出来ないことを日常で Try することはとても難しいはずですが、1人ひとりが誰よりも多く失敗し、1分1秒を無駄にせず、自分を守る言葉より先にまずは行動あるのみで過ごして欲しいと思います。



松川原さんと集合写真